



発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代 1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子  
連絡先：[office@koaziroyc.jp](mailto:office@koaziroyc.jp)

# 小網代通信

2021年 11月号 VOL-281

## 今月の内容

- |                          |                    |        |
|--------------------------|--------------------|--------|
| ・連絡事項                    | 編集委員               | 1ページ   |
| ・「2021年10月実施のハーバー整備作業報告」 | 三浦 征幸(ハーバー管理整備委員会) | 2ページ   |
| ・「ルールの一部改正について」          | 五十嵐 光(ルール委員会)      | 3~4ページ |

## 連絡事項(編集委員)

### 1. < ウィズコロナ 豊かなヨットライフのためにも感染対策を忘れずに KYC 野村会長より >

10月に緊急事態宣言が明け「陸にいるのは飽きた」「海に出たい」という声は、潮気の強い小網代の皆さまであれば誰も同じと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症が消えたわけでもなく第6波が来る可能性もあり、まだまだ油断禁物なのも十二分にご承知されていると思います。

そんな中、小網代ヨットクラブでは、少しずつですが正常化に向けてイベントや活動の再開を始めています。皆さまが集まりやすいクラブハウスについては、感染症対策と最低限の使い勝手を両立させた利用方法をとり決め運用しています。豊かなヨットライフのため引き続き感染対策を忘れずに、ご活動を頂けます様どうぞお願いいたします。

### 2. < イベント及びKYC活動再開 >

- ・10月KFR 10月17日(日) ⇒ 荒天のため、当日中止となりました。
- ・10月ハーバー整備作業 ⇒ 10月の4日間作業が行なわれました。作業内容は2ページに。
- ・11月6日(土)~7日(日) ⇒ 「第59回小網代カップレース」が開催されました。  
昨年同様、新型コロナ対策を励行、晴天 強風の中、参加艇は全艇無事にフィニッシュいたしました。注目は、白石康次郎氏の世界一周艇「Global One」がレースに伴走したことでした。KYCからの参戦は、「テティス4」(IRCクラス14艇中9位)・「アルファ」(ORCクラス4艇中2位)となりました。レース報告書は、12月号までお待ちください。なお、レース展開はホームページ「RACE」から「スマホでヨットレース」でご覧いただけます。(KYC2艇のログが不安定なのが残念！)



テティス4とアルファの出港風景。



灯浮標をスタート、白石康次郎氏艇がゆっくり最後から。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 11月22日(月) 20:00~ web会議開催予定】

2021. 11月号-1

## 2021年10月実施のハーバー整備作業報告

ハーバー管理整備委員会 三浦 征幸

10月23・24・30・31日の土曜日、日曜日にコロナ禍で暫く実施しなかったハーバー整備作業を実施致しました。今回の作業は急遽、実施が決まったため、会員への告知期間が短く驚かれた方もあると思います。事の発端は、10月初旬に[イクソラ]の船首側繫留索の切断があり、急遽ダイバーに修理を依頼した所、[イクソラ]の繫留索の根本金物(シンカーから取っている)が磨耗破断していた。ダイバー野口氏の意見では今回は[イクソラ]だけが切断したが、その列すべて同様な磨耗の進行が懸念されるので点検、交換の必要があるとのことでした。そのため、今回の作業が急に決まりました。

幹の繫留索は組合で設置した物なので、今回の交換金物(シンプル シャックル ロープ等)とダイバー費用は組合で負担いただく事で話が決まり、上記の日程となりました。今回、緊急作業を要するのは[イクソラ]のある3列目と、暫く点検していないそれより後ろの列と決め準備をしていましたが、いざ作業を開始してみると、3列目船首索と同じシンカーから1列目の船尾索が取られており、それも同様に磨耗していることが分かり、当初予定の2倍以上の手間がかかりました。

当初予定していた4日間の日程の31日は予備日とみていましたが、丸4日間の作業となりました。

以下に今回の作業の概略を記します。

シンプル交換	30個
シャックル交換	46個
チェーン交換	6ヶ所
ロープ交換	3ヶ所
補強・補修	10ヶ所余り
遺棄アンカー回収	4個等



磨耗交換したシャックル、シンプルの例

作業参加者:ダイバー 1名 組合 4名 クラブ員 10数名

作業に協力いただいた方々に感謝申し上げます。

### 作業風景 (大型船は桟橋丸)



## ＜ルールの一部改正について＞

ルール委員長 五十嵐 光

コロナ禍の自粛も解除され、少しずつレースも開催されるようになってきましたが、2021年よりルールが一部改正されています。安全且つ公正にレースを楽しむためにもルールに慣れて頂きたく、少しずつですがルールについてお知らせしていきたいと思っております。  
また、レースに参加されない艇におかれましてもレース艇の動きやルールの考えを知ることは無駄ではないと思われまますので、是非ご一読頂ければと思います。

参加艇・選手向けの概要は以下の通りですが、今回は最初のスタート(リコール)、フィニッシュ等の判定基準についてお知らせします。

### ●概要

- ・ スタート(リコール)、フィニッシュ等の判定基準が、「艇体、または正常な位置にある乗員もしくは装備」から「艇体」だけに変更
- ・ 障害物タック時の声かけ、聞こえないときの信号義務化
- ・ スピンネーカー展帆時の輪ゴムや毛糸等の使用禁止(これまでレース公示NoR、帆走指示書SI等でごみの処分の例外で使用許可できたが、今回から完全禁止)
- ・ 夜間の灯火:「安全のため必要な場合」から「装備されている場合」となり、ヨットレースルール上も航海灯点灯義務化
- ・ セールナンバーはセールと対照的な色に(黒地セールに黒色や濃紺等のセールナンバーは違反)

### ●スタート(リコール)、フィニッシュ等の判定基準:

これまでスタート時に、選手やセール、スピンプールなどが艇体(hull)から出ていれば、そこがリコール等の判定基準であったが、改正後は艇体(hull)自体だけが判定基準となった。

リコールでのスタート・ラインへの戻りの基準や、戻っている艇がその他の艇を避ける場合の基準も艇体(hull)と規定された。

これまで、正常な位置にある選手やセール、スピンプールなどが艇体(hull)から出ていれば、そこがフィニッシュの判定基準であったが、改正後は艇体(hull)自体だけがフィニッシュの判定基準となった。

従って、フィニッシュ・ライン付近でペナルティーを履行する場合、フィニッシュする前にその艇の艇体(hull)が完全にフィニッシュ・ラインのコース・サイドになければならない。

なお、「hull」はセーリング競技規則IRRSでは従来から「艇体」としているが、セーリング装備規則IERSでは今回の翻訳から「ハル」と記述するようになった。

艇体の判定基準:船殻本体だけで、パルピット、バウスプリッド、アンカーガイド、外付けラダー等は「艇体」ではない。(ERS D.3.1のハルの長さの図解 参照)

ERSD.3.1ハル(艇体)の長さの図解

